

平成7年度工業技術連絡会議物質工学連合部会
物質工学連合部会第4回デザイン分科会
議事録

期 日 平成7年6月22日(木)13:30~20:30、23日(金)8:30~13:00
会 場 伊勢シティホテル伊勢市吹上1-11-31 TEL.(0596)28-2111

1. 参加者受付(2階平安の間前) 12:00~13:30
2. デザイン分科会本会議(平安の間) 13:30~14:40
(1) 開会
(2) 挨拶
(3) 議長選出

(4) 議事

ア. 関係機関指示連絡事項

・ 生命工学研究所

秋に久留米で生命工学連合部会がある。ものづくりと人のインタフェースの部分は生命学研究所に相談してほしい。研究に文化性を取り入れるのは結構だが、科学的な裏付けを常に忘れぬように。

・ 三重県工業技術センター

研究に生活文化的な側面からアプローチしている。

・ 平松デザイン分科会長

11/22の生命工学研究発表会に4名の発表応募を。

・ 日本産業デザイン振興会

10月から通産省貿易局検査デザイン行政室は産業政策局サービス産業課に組織変更する。

パソコン通信ネットワークを始めつつある。6/16にGマークの申請受けを締め切ったが2~3割のダウンとなった。企業が開発アイテムを絞ってきている。人材開発センターはスタッフ2名でデザイン業へのサポートを行っている。これから89機関の事業的ネットワークを図りたい。

イ. 分科会への提案要望事項

・ 福島県

実質的な研究会はひとつにして長い時間をかけて討議したらどうか。

・ 横浜市

研究会に CAD そのものはやめて、通信部門を強化したらどうか。研究会は 3 つにし、福祉・環境等をテーマに。秋の発表会は是非続けて欲しい。

・愛知県

福祉の研究が大切である。

・山口県

研究テーマは社会の問題・ニーズ別に分けて欲しい。

・静岡市

この会議の前に各機関から情報提供してもらい、資料をファイル化したらどうか。

ウ.その他

1) 埼玉県から「公設試デザイン研究員の意識と展望調査」報告

これからの公設試はデザイン業と製造業の橋渡し役になっていくだろう。

2) 今後の分科会予定

秋は筑波(茨城県)、来春は九州ブロック、来秋は筑波(東京都工技センター)次期デザイン分科会長には関口氏(横浜市)

3) 研究会の経緯と内容

- ・ CAD(関口) すでに CAD はどこでも使っている。研究会のテーマは福祉、環境、ものづくりに分けて。
- ・ クラフト(鳥田) クラフト研究会は地域振興が発端。元気が出る研究会に。設立当初の CAD=ワザ、クラフト=ココロ、ファニチャー=ヒト(人が使うもの、人との関係)との関わりという視点で 3 つに分けたらどうか。
- ・ 家具(松野) 産地の技術動向を情報交換してきた。会報を発行してきたが、現在中断している。福祉関連の資料調査をしていきたい。
- ・ 平松会長の提案
 - a. CAD(情報)デザイン研究会
 - b. 生産デザイン研究会
 - c. 福祉デザイン研究会 の 3 つに分けたらどうか。

3. 講演(平安の間)講師有限会社伊勢福取締役部長 中村 学氏 14:50~15:50

テーマ「伊勢"おかげ横丁"の誕生」

伊勢神宮内宮参道のおかげ横丁の古い町並みを再現した地域起こしの実践例。中心となる赤福は年商 150 億、年産 1400 万箱(12 コ入り換算)。横丁の建築は切妻・妻入、赤目杉板張りで統一。総面積 4500 坪に三重の古い建築を移管した。H5/7/16 のオープンから年 156 万人が訪れた。総予算は建物 70 億、土地 30 億、展示 20 億、移設 20 億で総額 140 億かかった。

4. 分散研究会・CAD 研究会・ファニチャー研究会・クラフト研究会 15:55～17:00

5. 全体会議(平安の間)・研究会報告、質疑応答、その他 17:00～17:30

・CAD 研究会

総論では研究会を白紙に戻し、3 つを別々の視点で再編成するという意見になるが、具体案となると今までの研究会を引き摺った形になってしまう。CAD の成果物に直結する部分は他の研究会で揉むようにし、この研究会では「情報」を全面に出し、データベースや設計技術に特化した研究会に発展させることとした。平松会長からは、各県それぞれの事情を考えると最大公約数を取らざるを得ない。発想を膨らめ、集約し、またふくらめるのがデザインの役割であるとの参考意見をいただいた。次期会長は未定。

・クラフト研究会

領域を地域のデザイン活動・デザイン戦略に活力を持って広げていくことで、名称をニックネーム的意味合いの地域デザイン振興研究会に決定した。次期会長は奈良県の山野氏。幹事には協力をするという事で意思統一を計った。

・ファニチャー研究会

分科会長の提案に沿い、ファニチャー研究会だけでなく、全体の研究会の在り方について討論を行った。ファニチャー研究会が、福祉研究会の代替的なイメージを持たれた方もいたようであったが、福祉は、時代のテーマとして取り組む必要はあるが、研究会のテーマとしては、特化しすぎているので、テーマとしては、相応しくない。また、地域デザイン振興を研究会にという意見もあったが、行政的テーマなので、研究会には、あまり相応しくない。よって、提案のあった3 つから、情報デザインと生産デザインの二つに分けることが望ましいということでまとまった。福祉は、生産デザインの一つのテーマとして取り組むような形でどうかという意見が出された。全体として研究会の方向性が定まらない会議であったが、分科会長の提案は、従来のものにこだわらない形の研究会を!ということであったが、形として従来のものの改編的な形での話のまとまり方になってしまった。福祉や生活文化、情報通信などが今後の課題であるとの共通認識で、CAD は、情報 CAD(仮称)研究会、クラフトは、地域デザイン振興研究会(仮称)、ファニチャーは、生産デザイン研究会(仮称)走りながら考えることとなった。

6. 閉会

23日(金)

現地研修会 8:30~13:00

(1)海の博物館(鳥羽)

日本や東南アジアの人と海の関わりをテーマに漁具や漁民の生活を展示した博物館。温湿度管理された収蔵庫には数十隻の木造船と多数の道具が陳列されていた。別棟のA,B棟では志摩地方ならではの海女の生活の歴史が紹介されていた。この博物館は展示もさることながら、その木造大断面構造の建築が高く評価されており、一見の価値がある。デザインと生活文化の接点が垣間見られる内容である。

(2)伊勢おかげ横丁

映画のオープンセットさながらの光景には微笑ましいものがあった。自動販売機や緑の公衆電話というようなミスマッチは一切排除し、人との触れ合いをコストがかかっても追いつける姿勢が町並みに現れていた。伊勢神宮の杉木立ちと玉砂利と檜柱のシンプルな色づかいと比べ、横丁全体は派手さを押えたとはいえ、ややトーンが強すぎるきらいがある。

(3)その他

デザイン分科会も実質的な会議としては、前期の地方開催の分科会のみで、参加者も毎回同じではない状況での開催で、討議内容がなかなか前に進まないのが現状である。しかし、また全国の試験研究機関の唯一の集まりでもある事をふまえて、今後十分な検討が、必要不可欠である。講演等も場合によっては、省略し、ある程度の結論が出るまで討議を続けられるような時間配分が必要であると思われる。また、今回の開催にあたり、開催県である三重県工業技術センターならびに伊勢市工芸指導所の取り計らいに感謝したい。

以上